



失語症全国大会 in やまなしを終えて

実行委員長 内山 量史
(一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長)



令和5年9月30日に「失語症全国大会 in やまなし」を無事に開催することができました。これまでの準備から当日の運営まで携わっていただいた実行委員の方々、当日ボランティアとしてサポートしていただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

当日は全国各地から約230名の失語症のある方やご家族、言語聴覚士、学生さんが参加していただきました。甲府に来られない方々にはオンラインを活用し全国27か所から参加していただきました。当日は本イベントに合わせて友の会やサロンを開催してオンラインで参加された組織もあると聞きました。

会場は2019年3月ぶりの大会とあって久々の再会や交流を楽しむ当事者の方々の笑顔で満ち溢れていました。あの光景を目の当たりにしたスタッフはきっと慌ただしい準備に携わりながらも嬉しい気持ちで1日を過ごされたことだと思います。

この全国大会は2020年9月の開催で準備を進めてきましたが新型コロナウイルスの感染拡大により延期を余儀なくされました。一度折れた心を再度、奮起し大会の準備に向けて始動するのは正直大変な作業でしたがゼロからひとつひとつ積み重ねて準備を進めていきました。それぞれの役割を完璧に果たして成功に導いていただいた実行委員に感謝申し上げます。

本大会の開催に際しては山梨県をはじめ多くの都道府県言語聴覚士会、関連団体、言語聴覚士が勤務する病院の協力をいただきました。本当にありがとうございました。

当会はこれからも失語症友の会ふじやまの運営や山梨県失語症者向け意思疎通支援事業などを通じて失語症のある方々の地域での生活が豊かになるように支援を継続していきます。

- 《目次》 P1…失語症全国大会 in やまなしを終えて P2～5…失語症全国大会 in やまなし開催報告
P6…ふじやま便 P7…失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修報告
P8…春期都道府県士会会長会議報告/失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修修了者のつどい
P9…ミニ講座 P10…理事会報告 P11…各局・委員会からのお知らせ

失語症全国大会 in やまなし 開催報告

日時

令和5年
9月30日(土)

会場

山梨県立図書館 イベントスペース
(山梨県甲府市北口2-8-1)



9時30分 受付開始 10時15分 開会式



上段写真左：受付風景。中：開会式前の緊張した面持ちの副会長と大会長。右：甲府駅入り口でお迎えをするスタッフ。
下段写真左：モザイクアートの撮影風景。中：午前中の司会を務めた赤池洋副会長。右：開会式に列席された来意の方々。

3年越しの思いが募り、失語症全国大会が開催されました。当日の甲府は、9月下旬にも関わらず30.8℃を記録し、まるで“失語症全国大会 in やまなし”に訪れた人々の熱気を表すような天候となりました。

北は岩手県、南は大分県からと全国各地から失語症当事者の方々が山梨へと足を運んでいただき、実行委員およびスタッフ全員でお出迎えするとともに、オンラインで全国の失語症者と中継を繋ぎながら、山梨での失語症全国大会がスタートしました。

ちょっと裏話！！

前日は、県士会会員が18時に県立図書館に集合。
当日会場運営を担当していただいたUTY企画様と一緒に受付の準備やポスター・作品展示などの準備を行いました！





11時 座談会「失語症の現在と未来」^{いま これから}



上段写真左：座談会演者、左から園田尚美様、渡邊修先生、深浦順一先生、立石雅子先生。
 中：当事者の方からの質問の様子。
 右：講演会の様子を熱心にスマホで撮影。
 下段写真：大分県から来県された言語聴覚士を目指す学生さん。座談会最後には、座長内山会長と演者に対して、お礼の言葉を述べた。



13時15分 日本失語症協議会 40周年記念イベント



上段写真左：歓談風景。 右上：日本失語症協議会 40周年記念イベントで挨拶をされる新藤美也子様。
 下段写真左：会場内食風景。 右下：日本失語症協議会 40周年記念くす玉が割れた様子。

開会式後、「失語症の現在と未来」と題した座談会が開かれました。様々な立場から失語症についての話がされ、全員が熱心に耳を傾けていました。参加者は、失語症当事者やご家族だけでなく、言語聴覚士を目指す学生さんが大分県から来県するなど多岐に渡りました。質疑応答では、「失語症者向け意思疎通支援事業が一番進んでいる県はどこですか」、「自分の住む県では、意思疎通支援事業が個別支援で使えない、どうしたらよいか。」といった具体的な質問や「支援事業を使ってやりたいことがたくさんある。例えば、図書館に行って本を代わりに読んでもらうとか…」など、当事者のリアルな思いを聞くことができました。

座談会を終えた後は、甲府北口の景色を楽しみながら食事を召し上がっていただきました。久々の再会もあってか、食事をしながら会話も弾み失語症者の方々の生き生きとした様子がみられました。

午後の最初には、失語症協議会40周年イベントで新藤様からご挨拶をいただきました。そして、記念のくす玉を割り、会場全員でお祝いをしました。



13時30分 お楽しみレクレーション



上段写真左：景品のシャインマスカットを紹介する赤池三紀子副会長。中・右：会場もオンライン参加者も夢中でジャンケン。
下段写真左：立石協会副会長。中：櫻井副大会長。右：見事ジャンケンを勝ち抜いた福島県の言語聴覚士の参加者。



14時 講演会「皆さんお元気ですか、今日は何回笑いましたか」



写真左：会中是要約筆記がされた。13時半時点で参加者は221人。
写真中：スクリーン越しに笑顔で登場された大田先生。
写真右：じゃんけん大会の感想を述べた後、内山会長と意気投合した参加者。



15時 みんなで歌おう



上段写真左および下段写真左：北多摩失語症友の会「若竹」の群読。上段写真中：愛知県みずほほい失語症者のつどいの「ほくらの唄」。
上段写真右：岩手県もりおか失語症友の会の歌唱 下段写真中・右：ふじやまの合唱。

そして、待ちに待ったじゃんけん大会。景品は、山梨の誇る「シャインマスカット」。会場参加者もオンライン参加者も、我こそはと拳を高々にジャンケンしました。会場内は、熱気に包まれる中、優勝者を決めるまでのジャンケンの回数は、わずか4回…。見事景品を引き当てたのは、福島県言語聴覚士会の方でした。

その後、第1回大会から失語症全国大会に携わっていらっしゃる大田仁先生の講演を画面越しに聴講しました。コロナ禍で3年間先生にお会いできていない方も多かったようで、画面越しではありましたが、大田先生が手を振って登場されると会場全体が明るい雰囲気になりました。



15時30分 ニコニコ長生きやまなし体操
16時15分 モザイクアート ・ 閉会式



写真左：ニコニコ長生きやまなし体操。中：閉会式の内山実行委員長。右：モザイクアート。受付で撮影した顔写真での“赤富士”。

大会も終盤に差し掛かり、“みんなで歌おう”では、岩手県、東京都、愛知県の失語症友の会から群読や歌の披露がありました。当士会からもふじやまの会員が「武田節」「富士の山」を舟越理事、向STの演奏と共に披露することができました。当事者の方々に脚光があたり、笑って、歌ってのあっという間の時間でした。歌の後には、“ニコニコ長生きやまなし体操”を会場全員で行い、会場全体の一体感が生まれました。

最後に実行委員長の内山会長より閉会の言葉が述べられました。「失語症全国大会は、失語症の方々にとって、とても有意義で絶対に必要なものだと思った。これは、ずっとずっと続けていかなくてはいけない。」とまとめられ、山梨に続く大会が行われることを皆で祈願して、閉会されました。



失語症全国大会 in やまなし 懇親会 会場 談露館



懇親会では、山梨の美味しいお食事やワイン、ビール、日本酒などの山梨のお酒をおいしく頂きながら、他県の方々とも一緒にお話しする時間が設けられました。中には急遽当日参加をされた方もあり、それだけ大会を楽しんで頂けたのかと思っています。懇親会終了時には、記念撮影と共に“365歩のマーチ”を振付付きで大合唱して次回大会での再会を祈念しました。皆さん、またお会いしましょう！



ふじやま便 No.7



山梨県言語聴覚士会が運営する失語症友の会「ふじやま」は、新型コロナウイルスの流行に伴い、定例会を開催することができておりませんでした。令和5年3月4日(土)、実に3年ぶりに会員の皆様が集まり、久しぶりに会えたことを喜び合いました。定例会を重ね、失語症全国大会 in やまなしの開催県として、ご参加いただく皆様に精一杯おもてなしするために、知恵を出し合いながら準備をしてきました。



「久しぶりに会えて嬉しかった」3年ぶりの定例会



全国大会に向けて準備中



開会宣言



大会長挨拶

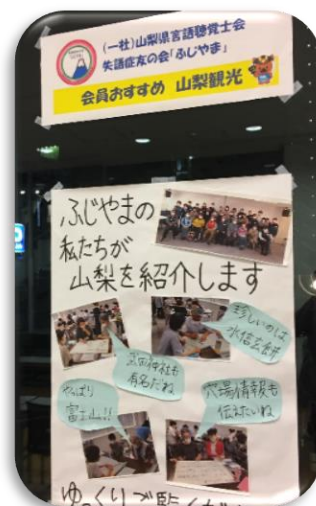


ふじやま会員と支援者との大合唱を披露しました

失語症全国大会 in やまなしが終わっても、定例会で会員の皆様と会い、たくさん語り、色んな活動をしていきたいと思っています。STの先生方もふじやま定例会に参加し、会員の皆様と一緒に活動してみませんか？お待ちしております。

作成：「ふじやま」運営委員会

9月30日(土)に山梨県立図書館で開催された失語症全国大会 in やまなしでは、会場とオンラインを繋ぎ、交流を深めました。開会宣言・大会長挨拶と緊張した場面もありましたが、知恵を出し合った山梨のおすすめ情報を展示したり、会員のギター演奏で「ふじの山」と「武田節」を会場の皆様と一緒に歌ったり、プレゼントのブドウを賭けたじゃんけん大会等、楽しい時間を過ごすことができました。



山梨のおすすめ情報

失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修報告

「失語症全国大会 in やまなし」

山梨県失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会
委員長 赤池 三紀子



開会前支援者打ち合わせ場面

令和5年6月3日(土)、今年度の「失語症者向け意思疎通支援者養成研修選択科目(スキルアップ研修)」が始まりました。この研修は昨年までの3年間で必須科目40時間を修了した登録者30名に対し、応用編として8時間の講習と32時間の実習で多様な失語症者のニーズに応え、更なる支援技術の習得を目的にしています。

今年は県の広域派遣事業として「失語症全国大会」での県内外からの失語症参加者に支援できる技術を身に着けるといふ一番の目標があり、この大きな使命に向けて第1回研修会から大会前の第6回まで毎回14名前後の支援者が研修しました。特に大変だったのは要約筆記を学ぶ回で、書かれた原稿の何をどのように選択してどう記述するのか、STの私たちにも困難な作業でしたので支援者は頭を抱えていました。大会が近づくと要約筆記者でもある協議会関係STが当日の関係者挨拶をすべて要約筆記することが判明し、少なからず安堵したものです。大会当日にはふじやま会員へ支援をした者、県外から参加される当事者に改札口から支援を開始した者、初対面の受付から支援をした者など16名の支援者が、今大会が失語症者向け意思疎通支援者の全国初のお披露目という重圧からも開会前から緊張して必死な様子でした。しかし、大会終了時には支援した方やそのご家族から温かいことばをいただき、支援者の役割を改めて実感することができた一日でした。今年、残りの3回の研修会ではこの大会の振り返りを中心にしながら、さらにコミュニケーション支援技術を磨いていきます。



「2023 年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修修了者の集い」報告

7月22日（土）オンライン開催

山梨県失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会
委員長 赤池 三紀子

今年で5回目となったオンラインでの集いは、栃木県、広島県、大阪府の3士会からの情報提供を受けての意見交換となりました。2018年度からの支援者養成研修事業の実施は昨年度で4士会を残す状況にまで進んだことが日本言語聴覚士協会の実施状況調査として報告されたことは喜ばしい限りでしたが、当会のような地方都市では派遣支援の実施に際して、およそ当事者の送迎手段について苦心している様子が伺えました。その打開策として、公共交通機関利用のみでは移動ができない当事者には支援者が当事者を同乗させる考え方や福祉タクシー利用券の活用があることが情報提供されました。いずれも保険等の重要な判断を含んでいるため自治体と要相談、もしくは既に稼働しているという報告もありました。また、この事業の拡大のためには「失語症者への支援」と銘打った地域での啓発活動の必要性も示唆されました。現状での実施状況には地域差があり、今後も状況を共有する機会としてこの集いへの参加を継続し、失語症への理解・支援の普及に向けて取り組んでいきたいと思っております。

令和5年度春期都道府県士会会長会議報告

山梨県言語聴覚士会 副会長 中村 晴江

令和5年7月8日（土）、春期都道府県士会会長会議が開催されました。会議の冒頭にはリハビリテーションを考える議員連盟など外部関連団体の動向や他団体との連携活動について深浦会長から説明がありました。その後、各部からの事業報告と受給調査など今後の活動に対する協力依頼がありました。また、私たち言語聴覚士の将来にも関わる重要な議題である士会協会間の連携体制について検討委員会による中間報告が行われました。職能団体の活動は、今後ますます重要性を増してきますので、協会と各士会が力を合わせてより良い方向へ進めていかなければならないと考えます。都道府県士会会長会議の詳細な内容につきましては協会HPや情報誌 STANDUP 第67号をご覧ください。

今年度の日本言語聴覚学会では現地参加者が1,000名を超えたそうです。コロナ禍を乗り越えつつある現在、今後の言語聴覚療法（士）の在り方・活動にとって重要な時期となっています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



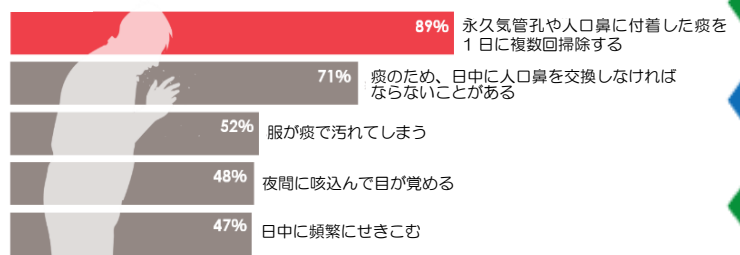
三二講座

喉頭摘出者向け「人工鼻」は保険適応 ～喉頭を摘出された後に永久気管孔を保護する人工鼻のご紹介～ 株式会社アトスメディカルジャパン クリニカルサポート部 佐藤 純史

喉頭がん、下咽頭がん等で喉頭摘出をされる症例は、年間少なくとも約 1,500 例*1ともいわれています。

喉頭摘出後の最大の課題とされるのが、「咳」や「痰」です。喉頭摘出後の約 9 割の方が永久気管孔や永久気管孔に装着した人工鼻に付着した痰を 1 日に複数回掃除する事等を余儀なくされております。また、咳や痰により多くの方が悩みを抱えており QOL を下げる要因の一つとなっております。図 1*2

図 1



そのような課題の解決として、一翼を担う医療機器が弊社でも扱っている喉頭摘出者用人工鼻です。喉頭摘出者用人工鼻および関連材料は、2022 年 9 月に特定保険医療材料として認可され医療保険適応となり、現在は多くの喉頭摘出後の方々にご愛用頂いております。

人工鼻は最大 24 時間まで使用できる「加温」「加湿」「防塵」の特性を有した密閉性の高い人工鼻力セットを、接続用材料（皮膚に貼るシールタイプのものや、永久気管孔に直接留置するチューブタイプのもの）に装着し使用します。喉頭を摘出された方は、外気を直接気道および肺に取り込むこととなりますが、人工鼻を使用する事によって、鼻呼吸をしていたときの機能を一部補うことができ、気道、肺を加温、加湿された状態に保つことができます。それにより、痰や咳の回数の減少、また睡眠の質など複合的な QOL の改善が期待できると言われています。図 2、図 3

図 2 人工鼻3カ月使用による呼吸器への影響

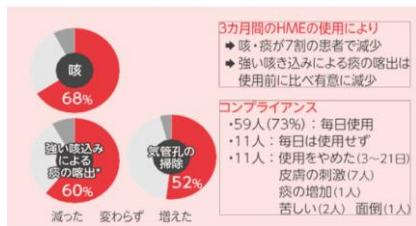
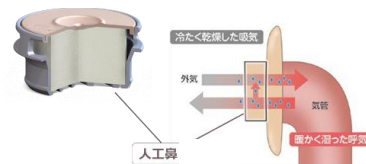


図 3



人工鼻をご使用になりたい場合は、まず主治医もしくは看護師や言語聴覚士にご相談ください。また、弊社株式会社アトスメディカルジャパンでも喉頭摘出後の生活のお悩みや代用音声（シャント発声、電気式人工喉頭）、人工鼻製品に関するご相談を受け付けるコールセンターを開設しており、言語聴覚士、看護師の資格を持つ専門スタッフによる製品説明、患者会などへのご案内などのサービスも行っております。お困りの方々がいらっしゃいましたら是非弊社へお問合せ頂きますようお願い申し上げます。

お問合せ先：TEL：03-4589-2830 Mail:info.jp@atosmedical.com

*1 社会医療診療行為別統計（旧：社会医療診療行為別調査）より

*2 Quantitative ReD research, 2018 より。（アトスメディカル社が ReD Associates 社に依頼し 2018 年に行った、定性・定量調査の結果。）

第1回 理事会議事録

日 時：令和5年4月7日(金)19時00分～20時02分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、石垣、市川、桂川、佐々木、
高橋、舟越、元木、吉澤、河西
欠席理事：中村、山田

<協議事項>

1. 症例検討会の日程について、偶数月の第3木曜日を基本として実施することが決定した。学術講演会、症例検討会は参加費無料で行い、非県士会員には、申し込み時に日本語聴覚士協会と各都道府県士会の両会員であることを確認することとなった。
2. 第15回学術大会は12月17日(日)にオンライン開催とすることが承認された。
3. 令和5年度社員総会議案書の確認・修正が行われた。

<報告事項>

1. 県士会NEWS55号の原稿執筆依頼の実施、HP更新状況について報告された。

第2回 理事会議事録

日 時：令和5年5月19日(金)19時57分～20時33分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、中村、石垣、市川、桂川、
佐々木、高橋、舟越、元木、山田、河西
欠席理事：吉澤

<協議事項>

1. 第15回学術大会について以下の内容が承認された。
開催日：令和5年12月17日(日) オンライン開催
定 員：講師を含む100名。100回線を超えた場合は施設毎で調整可能か打診する。
参加費：県士会員・非県士会員ともに無料
抄 録：県士会員は送付し、非県士会員はホームページからダウンロードする。
組織編成：大会長：吉澤由香理事、実行委員長：佐々木蘭子理事、オブザーバー：元木雄一朗理事
実行委員14名、査読委員7名
2. 新入会員について、金子優実ST、中島瑞穂ST、松村梨里香ST、五味優真ST、新藤久美ST、大島愛STの6名が承認された。

第3回 理事会議事録

日 時：令和5年6月16日(金)19時00分～20時28分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、中村、石垣、桂川、佐々木、
高橋、舟越、元木、吉澤、河西
欠席理事：市川、山田

<協議事項>

1. 県立図書館奇贈図書について、「失語症訓練の考え方と実際―新人STへのヒント(鈴木勉 編著)」「わかってくれるかな、子どもの高次脳機能障害 発達から見た支援(太田令子 編著)」の2冊が決定した。
2. 認知症サポーター養成講座は、今年度も教育部の新人研修プログラム内で実施することとなった。

<報告事項>

1. 第1回症例検討会の実施が報告された。
2. 日本語聴覚士協会令和5年度定時社員総会、甲府市高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する代表者会議、令和5年度第1回インクルーシブ教育システム推進連携会議、令和5年度外来リハ・訪問リハ・訪問看護・通所リハ・通所介護に関する実態調査について報告された。
3. 山梨県内の高等学校へのパンフレット送付が報告された。
4. 災害時安否確認システム第1回予行演習の実施が報告された。
5. 令和5年度第1回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会の開催、失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の実施に向けた実態調査について報告された。

第4回 理事会議事録

日 時：令和5年7月21日(金)19時00分～20時51分
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、中村、石垣、市川、桂川、
佐々木、高橋、舟越、元木、山田、吉澤、河西
欠席理事：なし

<協議事項>

1. 県士会NEWS56号原稿内容と執筆者について協議し、承認された。
2. 第15回学術大会の予算案が可決され、名義後援依頼13団体が承認された。
3. 第4回山梨県リハ専門職同学術大会の運営委員について公募とすることが決定した。

<報告事項>

1. 甲府市在宅療養動画制作に伴う出席者の推薦、リハビリテーション専門職等の活用の手引書作成検討会委員の推薦、山梨県看護協会看護職能委員会研修会の講師調整について報告された。
2. 第1回生涯学習プログラム基礎講座の実施が報告された。
3. 県士会NEWS55号の発送作業、HP更新状況について報告された。
4. インクルーシブ教育推進事業の実績が報告された。
5. 令和5年度認知症キャラバンメイト養成講座の参加者について報告された。
6. 令和5年度第2回・第3回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会の開催、失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の実施に向けた実態調査結果について報告された。
7. 第15回学術大会へ7演題応募があったことが報告された。
8. 第4回山梨県リハ専門職同学術大会第1回・第2回運営委員会の開催が報告された。
9. 失語症全国大会inやまなしの進捗状況が報告された。
10. 自民党(山梨県)への県政の要望書について、昨年度提出した文字表記付き防災ラジオの要望に対する回答、今年度の要望について報告された。

開催方法：オンライン会議

議 長：内山量史

書 記：高橋里実、佐藤淳貴、望月智佳

議事録作成：河西祐子

<各局・委員会からのお知らせ>

事務局

- ・会員動向（令和5年9月末現在）
正会員数 138名 賛助会員 7団体
- ・休会届について
育児や介護、健康上の理由などの事情がある場合には、休会申請をしていただくことで年会費が免除となります。休会申請は、休会しようとする年度の前年度の12月末日までに手続きを行っていただく必要があります。申請用紙は県士会HPからダウンロードすることができます。ご不明な点は事務局（総務部 河西 st@kasugai-reha.com）までお問い合わせください。
- ・会費納入のお願い
年会費10000円を未納の方は、佐々木財務部長へご連絡いただくか、下記口座へお振込みください。ご協力をよろしくお願いいたします。

金融機関名	山梨中央銀行
支店名 店番	石和支店 305
口座名 番号	普通 950758
名称	一般社団法人山梨県言語聴覚士会 シヤ・ヤマナシケンゲンゴチヨウ カクシカイ

学術局

学術局からのお知らせ
本年もZoomを用いたオンラインでの実施が中心となります。会員の皆様のご参加をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

<教育部>

- ・第2回 新卒者研修会
日時：令和5年10月
内容：STのコミュニケーションに欠かせないもの、対人コミュニケーション
講師：赤池 三紀子先生（湯村温泉病院）
中村 晴江先生（甲府城南病院）
- ・第3回 新卒者研修会
日時：令和5年11月
会場：Zoomで開催
内容：認知症サポーター養成講座
講師：山田 徹先生（笛吹中央病院）
- ・第4回 新卒者研修会
日時：令和5年12月
会場：Zoomで開催
内容：高次脳機能障害
講師：桂川 謙祐先生（甲府城南病院）
- ・第5回 新卒者研修会
日時：令和6年1月
会場：Zoomで開催
内容：失語症(SLTA 内容含む)
講師：元木 雄一郎先生（甲州リハビリテーション病院）
- ・第6回 新卒者研修会
日時：令和6年2月
会場：Zoomで開催
内容：摂食嚥下障害
講師：佐々木 蘭子先生（春日居総合リハビリテーション病院）
- ・第7回 新卒者研修会
日時：令和6年3月
会場：Zoomで開催
内容：構音障害
講師：石垣 亮太先生（甲斐リハビリテーションクリニック）
萩原 由香先生（山梨リハビリテーション病院）

<生涯研修部>

○学術講演会

- ・第1回 学術講演会
会場：Zoomで開催
日時：令和5年11月22日（水）18:30~20:00
内容：「摂食嚥下障害の訓練」
講師：福岡 達之先生（広島国際大学）
- ・第2回 学術講演会
会場：Zoomで開催
日時：令和6年3月14日（木）18:30~20:00
内容：「失語症者の自動車運転再開リハビリテーション」
講師：佐藤 卓也先生（新潟医療福祉大学）

○症例検討会

会場：Zoomで開催
日時：偶数月の第3木曜日
第4回：令和5年12月21日
第5回：令和5年2月16日

○基礎講座

- ・第2回基礎講座
会場：Zoomで開催
日時：令和5年11月14日（火）18:30~21:00
内容：「言語聴覚療法の動向」、「研究法序論」
講師：赤池 洋先生（山梨大学医学部附属病院）
中村 晴江先生（甲府城南病院）

社会局

<渉外部>

- ・日本語聴覚士協会定時社員総会が5月27日に開催され、当士会代表として赤池洋副会長、協会代表として内山会長が参加されました。
- ・日本語聴覚士協会春期都道府県士会会長会議が7月8日に開催され、当士会代表として中村晴江副会長、協会代表として内山会長が参加されました。
- ・やまなし地域リハケアの推進を考える会の会議が7月11日に開催され、内山会長、赤池三紀子副会長、舟越理事が参加されました。8月31日には内山会長、舟越理事が参加されました。
- ・山梨県民間病院協会PT・OT・ST部会の部長会議が7月26日に開催され、山田理事、萩原STが参加されました。
- ・令和5年6月に実施しました「外来リハ、訪問リハ、訪問看護、通所リハ、通所介護に関する実態調査」の結果を受けて、当士会ホームページの「言語聴覚士のいる病院・施設」に掲載してあります。ぜひご覧いただき、周囲の関係者の方にご活用いただけますようお願いいたします。ご協力ありがとうございました。

<広報部>

- ・内山会長と高橋理事が山梨県立図書館に書籍寄贈のため訪問しました。
- ・山梨県内の高等学校へST協会と当士会のリーフレットを送付しました。
- ・一般の方々に向けた言語聴覚療法の広報及び啓発活動を図っていきます。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、少しずつイベント活動が再開されていますので、感染対策に努めた中での広報活動に参加していきたいと思っております。

<会報編集部・ホームページ管理部>

- ・会報誌「県士会NEWS55号・56号」を発行致しました。今後は「県士会NEWS57号」発行に向けて準備を進め、当士会活動だけでなく会員間のコミュニケーションツールとして情報を伝えていきます。
- ・ホームページでは当士会や言語聴覚士の広報活動の一助となるように常に新しい情報の収集・発信を推進していきます。また、ホームページトップページ上段に掲載する写真を会員の皆様から募集しています。写真は当士会活動の様子や会員の集合写真、また会員から募集した山梨県の季節、名所の写真などをホームページへ掲載しています。ご協力をお願い致します。

災害対策支援委員会

災害対策支援委員会では災害時安否確認システム第1回予行演習を令和5年5月29日~6月5日、第2回予行演習を9月11日~18日に開催しました。第1回では74名、第2回では76名の会員の皆様に参加していただきありがとうございました。第3回予行演習を令和6年1月頃に開催予定としていますので、引き続きご協力をお願い致します。

ふじやま運営委員会

令和5年8月5日（土）に失語症者向け意思疎通支援者スキルアップ研修会との合同開催として、失語症友の会「ふじやま」定例会を開催いたしました。遊亀公民館研修室にて当事者さん・ご家族12名、失語症者向け意思疎通支援者12名、ST15名の総勢39名が集まりました。「失語症全国大会 in やまなし」に向け、山梨県のおすすめ情報を皆さんと共に出し合いました。9月30日に開催された全国大会では、おすすめ情報を展示し、全国から参加された皆様と共に楽しいひとときを過ごすことができました。今後も、ふじやま定例会を開催する予定です。皆様のご参加もお待ちしています。

在宅 HEALTH CARE FOOD 通信販売

病院で使われている医療・介護用食品をご家庭にお届けしています。

高栄養・やわらかい 飲み込みやすいをサポート

送料無料でセット

↑カタログのご請求はこちらからどうぞ！

はつらつ食品カタログにはやわらかさの程度や形態別に分類されたおかずやデザート、とろみ調整食品や濃厚流動食品が掲載されています。また、栄養指導で役立つコラムも多数ご紹介しています！

☑ 噛むこと、飲み込むことが苦手な方
☑ 飲食時によくむせる方
☑ 食の細い方

受付時間 月～土 9:00～17:00 (日・祝日は休業日となります)

〒191-0012 東京都日野市日野756
TEL 0120-236-977
FAX 0120-478-433

株式会社ヘルシーネットワーク
ヘルシーネットワーク 検索
https://www.healthynetwork.co.jp

やさしい聴こえのお手伝い

● 認定補聴器技能者在籍
● 補聴器の無料体験
● 支援法補聴器取り扱い

認定補聴器専門店
なかだて補聴器センター

甲府店 ☎0120-29-3321 玉穂店 ☎0800-800-8173
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮29-3 T-ウエスト

Gジェントル スティム

リハビリテーションのための
新たな電気刺激装置

痛くない療法
感覚刺激
使いやすい

fc foodCare JAPAN
TEL: 042-700-0039 www.food-care.co.jp

つるりんこ シュワシュワ

飲み込みにくいと感じる方が
おいしく、楽しく炭酸飲料を摂取するために

コーラ ソフトドリンク ビール ジンジャーエール 果汁系炭酸飲料 無糖炭酸飲料

他にも、豊富なラインアップがあります。資料・サンプル等のご請求はお気軽に。
☎0120-52-0050 クリニコ 検索
受付時間：平日 9:30～17:30 (土日祝日・年末年始・5/1除く) https://www.clinico.co.jp 森永乳業グループ 病態栄養部門 株式会社クリニコ

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。

株式会社アトスメディカルジャパン
〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890
info.jp@atosmedical.com

Atos Breathing-Speaking-Living

Pepti-Sal 唾液のチカラで健康と笑顔を

Oral Health for Everyone

デリケートなお口をやさしくケアし
お口の環境を健康に保ちます

Pepti-Sal (ペプチサル) とは、「Peptide (ペプチド)」+「Saliva (唾液)」の造語。唾液のチカラに着目して開発された低刺激性のオーラルケア製品です。要介護の方の口腔ケアにもおすすめです。

Pepti-Sal MouthGel Pepti-Sal Mouthwash Pepti-Sal Toothpaste

T&K ティーアンドケー株式会社
〒103-0002 東京都中央区日本橋本町1-5-7
TEL 03-5645-0033 FAX 03-5640-0030
www.comfort-tk.co.jp

編集後記

この原稿を書いているのは、10月初旬ですが、朝晩はだいぶ涼しくなり、秋の訪れを感じられるようになりました。

秋といえば“○○の秋”という言葉がありますが、皆様は“○○の秋”と聞くと真っ先に何を思い浮かべますか？私は、“読書の秋”です。

現在、2ヵ月に1回程オンラインで開催される読書会に参加しています。開催日までに課題図書を読み、当日、読んだ感想や気になった点などを参加者全員で話し合います。読み手が違えば解釈も異なるので、様々な視点から内容を捉える事ができ、とても有意義な経験をさせてもらっています。

さて、今号の目玉は「失語症全国大会 in やまなし」です。私もスタッフとして参加しましたが、各地から多くの方が集まり、とても活気ある大会になりました。写真等も掲載しておりますので、当日の雰囲気味わっていただければと思います。(河村 有美)

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人 山梨県言語聴覚士会
<発行人> 内山 量 史
<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 社会局会報編集・HP管理部

石 和 共 立 病 院 原 田 史 佳
春日居総合リハビリテーション病院 志 摩 美 月
甲 府 城 南 病 院 秋 山 仁 哉・桂 川 謙 祐
湯 村 温 泉 病 院 河 村 有 美
山梨大学医学部附属病院 高 木 建 汰
赤 池 洋

<事務局> 春日居総合リハビリテーション病院 言語療法科内
〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366
<発行日> 2023年11月1日 第56刊